



2008年3月1日掲載

## 駿遠紀行 / SL編

今月の「つれづれWEB」は、静岡県中部の駿河、遠江にまたがる「駿遠（すんえん）地域」の旅行の様をお送りする。今回は、2006年7月掲載の「[房総1泊旅行](#)」以来、実に1年半ぶりとなる親子3人水入らずの旅行なのだ。

主な行程は、大井川鐵道のSLに乗ったあと、御前崎を經由し掛川の倉真（くらみ）温泉で1泊。翌日は焼津で魚を購入し、久能山でイチゴ狩りという計画である。

日曜の朝8:30、自宅を出発。途中、我が息子の用足しを済ませつつ、東京ICから東名高速に乗る。

2月は観光のオフシーズンということもあり、渋滞もなく順調そのもの。ただし、唯一の難点は強風である。

前日には東京で春一番が吹いたが、この日は北風。天気はいいけれど、ハンドルが取られるほどの風なのだ。

そのおかげか、途中見える富士山も、山頂付近の雪が強風で飛ばされ、稜線も少しぼやけてしまっていた。そんな姿の富士山を我が子に見せて「あれ何？」と聞くと、しっかり「ふじちゃん（富士山）」と答える。我々夫婦では教えていないので、保育園で教わったのだろうか？

これまでノンストップできたが、富士川SAで休憩をとる。風は相変わらず強く、車からSAの建物の移動だけでも困難を極める。

ここで道路情報を見ると、SL乗車駅である大井川鐵道の新金谷駅に最も近い相良牧之原ICまで40分。時刻は10:40……全く土地勘のない場所で、SLの出発時刻11:58に間に合うのだろうか？

一抹の不安を感じた私は、やむなく飛ばして相良牧之原ICへ。高速を降りて、国道473号線で新金谷駅に何とか10分前に到着した。

本当は30分くらい前に到着したかったのだが、時間的読みが少し外れる。それだけでなく、10分前に着いたこともあって、駅弁が売り切れで購入できなかったのである。

「予約を入れておけばよかった」と後悔しつつも、仕方なく肉まんだけを購入し、切符を受け取る。SL急行券はすでにネットで予約を入れ

であったので、こちらは時間を要さずスムーズに受け取れた。

11:58、SLは新金谷を出発、一路千頭に向かう。しかし、我々は途中の下泉で下車する。

3歳の我が息子が飽きてしまわないように、1時間14分かかかる終点までではなく、41分だけの下泉までにしたのだ。また、千頭まで行くと、折り返し列車に乗るまで時間がかかり、先の行程に支障を来してしまうことも考慮した。

さて、この日のSLは「C10 8」。旧型客車5両と補機の電気機関車を従えての運行である。



列車内では、車掌による沿線案内やハーモニカ演奏で盛り上がる。また、車内

販売もあり、弁当やグッズを扱っていた。

しかし、ここでも弁当にはありつけず……。果たして、肉まんだけで宿まで持つのだろうか？

でも、車内販売のおもちゃは購入。我が息子が実演で食いつき、「車内販売限定」にひかれて買ったのだ。

ひもでつながれたSLと客車を引っ張ると、ぜんまいの力で連結したあと走り出すというもの。我が息子も相当気に入ったらしく、「買ってくれてありがとう」を連発していた。

そうこうしているうちに、下泉に到着。ここで下車して写真撮影し、新金谷に引き返す。

折り返しは普通の電車。しかも、1964年製の南海電車のお古である。

13:57に新金谷に着き、ホームにある狸の置物で記念撮影。そのあと、駅に隣接する「ロコミュージアム」を見学する。

展示してある機関車や客車は、すっかり子供の遊び場と化していた。ご多分に漏れず、我が息子もSLの運転台に乗ったり、客車に乗ってみたり、復元された古い駅舎の改札口で遊んだり、何とも楽しそうだ。

14:20に新金谷駅を出発。次の目的地、御前崎を目指す。

この続きは[こちら](#)からどうぞ。

[\[トップページ\]](#)



2008年3月7日掲載

## 駿遠紀行 / 御前崎編

今月は、家族3人水入らずで行った静岡県中部「駿遠地域」の旅行の様子をお送りしているが、今回は2回目。1回目は[こちら](#)をご覧ください。

新金谷駅を出発した我々だが、まともな昼食にありつけずに国道473号線を御前崎へ進む。でも、途中にコンビニを発見し、食料を調達して事なきを得た。

東名の相良牧之原ICまでは来た道に戻るのだが、IC付近で若干道に迷う。何しろ、国道は一本道ではないのだ。

何とか再び国道に入り、さらに相良バイパス、南遠道路へ。片側1車線ではあるが、信号も交通量も少ないので快適である。

そして、ときどき駿河湾と風力発電の風車が見え、思わずスピードも出してしまうがち。でも、しっかり自制する。



15:30、御前崎灯台に到着。普段の旅旅行なら、灯台見学時間を過ぎてしまいい中に入ることができない場合が多いが、今回は間に合ったので早速灯台に登ってみる。

狭い螺旋階段を登り、展望台直前のはしごのような階段を進めば、そこには絶景が広がっていた。だがしかし、とても景色を楽しむ余裕がないのだ。



この写真では白波でかろうじてわかるかもしれないが、何しろ北風が異常なまでに強い。展望台を一周しようにも、強風のせいで立つことすら困難なのである。

嫁さんと我が息子は、さすがに断念。特に、我が息子に至っては「怖い」と言い出す始末で、そそくさと退散せざるを得なかった。

16:00に御前崎を出発。宿のある、掛川の倉真(くらみ)温泉へと向かう。

ここから先は [こちら](#) に続く。

[\[トップページ\]](#)



2008年3月14日掲載

## 駿遠紀行 / 倉真温泉編

今月の「つれづれWEB」がお送りしている「駿遠紀行」は、今回が3回目。1回目は[こちら](#)、2回目は[こちら](#)をご覧ください。

御前崎を出発し、左に浜岡原発を見ながら、国道150号線を西へ。途中、県道掛川大東線に入り、掛川市街へと進む。

さらに市街を抜け、倉真（くらみ）温泉に向かう。しかし、進めども進めども温泉地らしいものはない。

どんどん人家が少なくなる中、ようやく17:00に到着。まさに、人里離れた秘湯といった様相である。

今回泊まる宿は、倉真温泉の中でも1894年創業という老舗の旅館。ネットで探し当てたものだ。

数あるプランの中で、選んだのは「♪家族でのんびり貸切風呂プラン」。貸し切り風呂に何回でも入れるものである。

子供連れ、特に幼児がいる家族旅行だと、貸し切り風呂の方が安心かつ落ち着いて入浴できるのだ。また、他の人にも迷惑をかけずに済む。

さらに、食事は別室で用意され、夕食はプランの中で複数のコースから選ぶことができる。今回は、「遠州夢咲牛のステーキ+季節のお料理コース」をチョイスしてみた。

宿に着くと、荷物を預けて抹茶のサービス。ロビーに設けられた茶室で、抹茶をいただくのだ。

ちゃんとした抹茶をいただくのは、中学の修学旅行での京都・聖護院以来20年ぶり。そのときに作法を習ったはずだが、すっかり忘れてしまっていた。

仕方なく、不作法で抹茶をいただく。まあ、作法でどうこう言われなかったのがせめてもの救いである。

抹茶のあとは、我々の泊まる部屋へ。途中、廊下に鹿と猪の剥製を発見すると、我が息子はすかさず食いつく。

部屋は和室10畳で、ネットではバス・トイレ

なしとなっていたが、トイレ付きの部屋だった。そして、テレビは最新式地デジ対応薄型液晶テレビにもかかわらず、肝心の放送がアナログなのは、掛川ではまだ地デジが始まっていないからなのか？

早速仲居さんに貸し切り風呂の予約を入れ、入浴。貸し切り風呂は、大人5～6人が同時に入っても余裕のある大きさである。

温泉は、単純硫黄冷鉱泉。そのおかげで、普段カサカサの我が息子の肌も、すっかりスベスベになった。

温泉のあとは、待望の夕食である。別室に通され、食事となる。

刺身や牡蠣など、お膳に並べられた料理だけでも十分満腹になる量。さらにこのあと遠州夢咲牛のステーキがやってくるのだ。

我が息子の食事をどうするかで悩んで、結局なしで予約したが、このボリュームだと食事なしで正解である。幼児なら、親の食事を分け与えてもなお余りあるのだ。

肝心の味は、どれも美味。特に、目玉のステーキは軟らかくて最高である。

正直なところ、この肉のためにわざわざ東京から来たといっても決して大げさではない。温泉とともに、旅の疲れを忘れさせてくれるのだ。

すっかり満腹になり、部屋に帰る。そして、その勢いで20:00には寝てしまった。

翌朝6:30、私1人だけ目覚めて温泉へ。前日は入らなかった大浴場である。

さすがに、こんな時間には誰も入浴しておらず、電気すらついていなかった。事実上の貸し切り状態なのだ。

ゆったり30分ほどつかり、部屋に戻る。それと入れ替わり、今度は嫁さんが大浴場に行った。

そして8:00、別室にて朝食。こちらも、夕食と同様ボリューム満点である。

それでも、モリモリ食べてしまうのが旅行マジック。旅行でうまいものがあると、普通に平らげてしまうのだ。

9:30、いよいよチェックアウト。今回は奮発してちょっぴり贅沢な宿を選んだので、支払いもいつもより多めである。

駐車場に着くと、我がグレカリブは氷に覆われていた。空気中の水分が凍って付着したものの、山間部だけに氷点下になったのだろう。



[\[トップページ\]](#)

この日は、まず掛川城へ向かう。その模様は  
[こちら](#)からどうぞ。



2008年3月21日掲載

## 駿遠紀行 / 掛川城 & 焼津編

今月は「駿遠紀行」と題してお送りしているが、今回はその4回目。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)は、それぞれからどうぞ。

2日目の朝、倉真温泉を出発し、掛川市の中心部にある掛川城へ。車で20分ほどで到着した。

ここは、実は友人に訪れるよう勧められた場所。天守閣から掛川市内が一望できるほか、新幹線が通過する様子もはっきり見て取れるのだという。

ところで、掛川城は戦国時代の文明年間（1469～1486）に、朝比奈泰熙（やすひろ）が今川義忠の命により築城。数えて6代目の城主が、2年前の大河ドラマでも有名な山内一豊である。

また、1994年に再建された天守閣は、日本で最初に木造で復元されたもの。それまでは、敷地は公園などとして利用されていたという。



我々は、早速天守閣へ。急でなかつ段差の大きい、まるではしごのような登り、最上階へ向かう。

こんな階段では、我が息子はスローペース。途中「だっこ」を連発していた。

最上階に到着、

しばし掛川市内を眺める。掛川駅と通過する新幹線も、手に取るように見えるのだ。





殿様気分を堪能し、今度は下り階段。我が息子も上り以上にスローペースになり、急な階段を怖がっていた。

天守閣の次は、「執務室」とも言える御殿へ。江戸後期の書院造りで、現存する城郭御殿としては、掛川城以外に京都・二条城など全国に数か所しかないという。

広々とした畳敷きの部屋に、我が息子は大はしゃぎ。特に立ち入り禁止とかにはなっていなかったもので、縦横無尽に走り回っていた。

掛川城のすぐ脇にある観光物産センターで土産物を購入し、掛川をあとにする。時刻は11:30、焼津へと向かう。

焼津までは、東名高速で30分ほど。うまい魚が待っている！

焼津ICを降り、IC脇の「焼津さかなセンター」を素通りし、まっすぐ焼津港へ。焼津港にある「うみえーる焼津」に到着したが、駐車場がやけに閑散としていた。

実は、土産物店以外は定休日……。そこで、焼津さかなセンターまで戻ることにした。

焼津さかなセンターは、海産物店と食堂の複合施設。月曜日でもバスが続々とやってくる、一大観光スポットである。

我々は、食堂で昼食をとる。親2人は3色鉄火丼、我が息子はいくら寿司を注文した。

やはりマグロの街焼津だけあって、マグロの味は格別。絶品の一語に尽きる。

昼食ののち、海産物店へ。嫁さんが「まるでベトナムのベンタイン市場のようだ」と言うように、市場のような作りで活気があふれ、場内も客でごった返している。

そんな中、アジの干物やカツオの塩辛、えびせんなどのお土産を購入。生ものの買い物を見越して、クーラーバッグを持参しておいたのだ。

一通り買い物を終え、時刻は14:30となった。久能山のイチゴ狩りへと向かう。

以後は[こちら](#)へと続く。

[\[トップページ\]](#)



2008年3月28日掲載

## 駿遠紀行 / イチゴ狩り編

3月の「つれづれWEB」は、静岡県中部を旅した「駿遠紀行」お送りしているが、今回はいよいよ最終回。[1回目](#)、[2回目](#)、[3回目](#)、[4回目](#)は、それぞれをご覧ください。

14:30に焼津を出発した我々は、一路静岡市の久能山を目指す。久能山へは、東名高速を使ってもよいが、国道150号線の方が道1本で行けるのでこちらを通る。

焼津市と静岡市の境である新日本坂トンネルを抜け、安倍川を渡ると、国道150号線は駿河湾沿いを走る。すると、「いちごライン」という愛称がつからしい。

どこでイチゴ狩りを楽しむか観光農園を探していたら、ガソリンスタンドの店員のように旗を振って誘導する人を発見！しかし、間際で見つけたため、そのまま素通りしてしまった。

そこで一度戻ろうとするも、海沿いで横に入る道がないのだ。やっとの思いで横道を見つけたが、かなり行きすぎたので相当戻らなければいけない。

「この辺かな？」と目星をつけて元の道に戻ってみると、一応誘導する人の手前にはこれたようだ。そして、さっきの人も再度発見した。

しかし、店じまいの最中のように見えたのだ。果たして、イチゴ狩りはできるのか？

誘導していたおばちゃんに聞くと、「3時だから、今ちょうど閉めようとしていたところだった」とのこと。ぎりぎりセーフで間に合った。

余談だが、我が息子曰く、誘導していたおばちゃんは「イチゴを着ていた」そうだ。赤いジャンパーを着ていたのでそう思ったようだが、やはりイチゴを意識してのことか？

早速、「イチゴのおばちゃん」に連れられ農園へ。山の中腹までイチゴのハウスが広がっていた。

その中でも、我々は真ん中ら辺のハウスへ。久能山のイチゴは、築かれた石垣にイチゴの苗を植える「石垣イチゴ」で有名である。



ハウスの中は、イチゴの甘い香りでいっぱい。そして、完熟の赤いイチゴがいっぱいになっていた。

しかも、コンデンスミルクをもらったものの、つける必要は全くないほど甘いのだ。完熟だけではなく、若干色づきが悪いものでも同じである。

また、大きさも10cmを超える巨大なものもあり、我が息子も一心不乱に食べていた。大人も、多少胃がもたれ気味でも、イチゴは入る場所が違う。

30分ほどイチゴを満喫したら、すぐそばの「すんぷ夢ひろば」へ。ここは江戸時代の駿府をイメージしたテーマパークで、温泉施設がある。

しかし、温泉は結構値が張るので、無料の足湯でお茶を濁す。嫁さんは、お土産で手ぬぐいを購入した。

夕方となり、静岡ともお別れである。でも、せっかくなので静岡に住む友達の近所まで行くことにした。

証拠に、友人宅の近所にあるスーパーの写真を撮りメール送信。友人から「マジで近所まで来たんだぁね」と驚いた返信が来た。

静岡市中心部を抜け、清水ICに来たところでトラブル発生。以前あったガソリンスタンドがなくなっていたのだ！

グレカリブの燃料も残りわずかで、ウォーニングランプも点灯している。このままでは東名高速に乗ることができないのである。

やっとのことで、なくなったスタンドと同じブランドの看板を発見。しかし、どこなのかがよくわからず右往左往してしまった。

結局のところ、別のブランドの店が特約店としてなくなったブランドと提携していたのだ。

全体としては別のブランドの看板を掲げているが、提携ブランドの名前が申しわけ程度にスタンドの建物に書かれていた。

全くわかりづらいたらありゃしない。本当に焦った……。

無事給油も終わり、清水ICから東名高速に乗る。昔なら平気で国道1号線で東京まで帰ったこともあったが、さすがに家族連れ&年を取ったこともありそれもできそうにもない。

途中、行きにも寄った富士川SAで、夕食として富士宮焼きそばを食す。帰路は急ぐ必要もないので、ゆっくりペースで運転する。

鮎沢PA付近で事故はあったものの、流れは至って順調。21:00に東京ICを降り、環八経由で21:30に自宅に到着した。

これにて、1泊2日の駿遠紀行は終わりである。さてさて、次はどこへ行こうかしら？

[\[トップページ\]](#)